

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

旭岳温泉の夏鳥、ベニマシコ

旭岳温泉や姿見の池付近では、春から夏にかけてバードウォッチャーに頻繁に出会います。大雪山の中でも旭岳周辺は、野鳥観察の適地として紹介されるエリアです。

人気の理由は、①原生林や湿原、高山植生と多様な環境がそろい、さまざまな種類の鳥が見られること②「ギンザンマシコ」という野鳥の数少ない(夏の)観察地であること③温泉施設を滞在拠点に出来、JR旭川駅、旭川空港から路線バスも運行し、ロープウェイがある一などが挙げられます。

姿見の池付近では、前述の「ギンザンマシコ」が人気ですが、旭岳温泉周辺では、近い中間の「ベニマシコ」が子育てをしています。

ベニマシコは、国内では主に北海道で繁殖し、本州以南で越冬する渡り鳥です。名前の「ベニ(紅)」は、オスの体色に由来します。胸や顔の周りが赤色(濃い桃

雌は雄の赤色の部分が茶色系の色。大きさはスズメくらい



色)をしており、繁殖期の夏は、冬よりも一段と鮮やかになります。

そんなわけでビジターセンターには、「夏羽のきれいなベニマシコが見られました」と笑顔の人々が訪れます。

ベニマシコは色合いだけではなく、体つきや声もかわいらしい鳥です。くちばしはボテッと短く(草の実なども食べる)、丸い体に長い尾が付いているように見えます。鳴き声も「フィ、フィ」「ピツ、ポツ」と聞こえ柔らかな声です。今どきの「癒し系」「ゆるキャラ」的要素を備えているように思えます。

8月ごろからは、若鳥を含めて数が増えているのを感じます。越冬地への渡りと、冬を経て少数のみ残るのが自然のバランスですが、「来年も、みんなで帰ってきてほしい」と矛盾したことをつい願ってしまいます。

旭岳ビジターセンターホームページ

<http://www.welcome-higashikawa.jp/info/?c=16>

旭岳ビジターセンター 田上千尋

俳句

夕風や宿の馳走は京らしく	山	佐知子
凜と立つ祭の旗の黄ばみかな	若田	久
遠い日の父の浴衣の膝の中	高瀬	潤
ポツリきて鍋底返す夕立かな	石澤	清宏
欲念を食べて大型冷蔵庫	澤田	久美子
夜涼みの森の冷気や苔匂ふ	松山	蓉子
日の入りを百合の香りに教えられ	三島	智
産土の神のつぶやき木下闇	若田	郁
チケツトも予約もいらぬ青葉椅子	秋山	深雪
浴衣着て一キロあまり路地巡る	長谷川	きみゑ
不意に来て突如帰る子夕立	小林	ろば
兼題の試案に霞む夕立かな	高橋	公花
浴衣着て孫の目線が定まらず	杉山	ひろのり
夕立の庭の木の下赤いまり	保科	なほ
草笛や時には続く八音階	徳光	吐苦
夏木立ち風に押されて踊り出す	杉山	りつ

